

つながりを通じて、世界を変える

外交学院学生代表

見学日時：2012年11月29日（木） 15:50－19:30

見学場所：丸紅株式会社

見学概要

11月29日の午後、「走近日企・感受日本」大学生訪日団の一行は日本の商社丸紅を訪れた。説明会が始まると、丸紅の担当者が私たちに同社の使命と理念「つながりを通じて、世界を変える」を紹介した。丸紅の使命は「つながり」にあり、人と物、国と国、文化と文化、心と心、現在と未来をつなげる。このような戦略的な理念に導かれて、一人一人に一種の崇高感と使命感を与えているのだ。

続いて、丸紅の代表が私たちに総合商社の概念を紹介してくれた。いわゆる総合商社は、百年前に普通の「貿易会社」から始まり、現在ではすでに貿易と投資を中核とし、金融、物流、リスクマネジメント、マーケティングリサーチ/開拓、プロジェクトの立案/マネジメントなどの総合機能を集中一体化した「大規模多国籍企業グループ」への強力な発展を遂げている。皆の理解を深めるために、丸紅はまた私たちに一枚の説明図を示し、説明を行った。

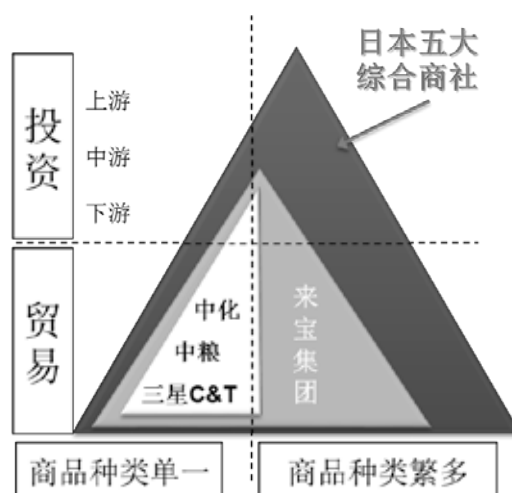
更に詳しい紹介の中で、私たちが理解したことは、優秀な総合商社として、丸紅には以下の3つの大きな特徴があることだ。1. 利益の基礎は貿易主体から投資にも転換している。2. グローバル化を重視し、海外投資を強調している。3. 主な業務分野は金属、エネルギー、機械である。

それでは丸紅はどのような規模を持つ総合商社なのか。丸紅では現在、合計13の部門が非常に大きな分野を分担しており、それぞれ食糧・食用油部門、食品部門、ライフスタイル部門、紙パルプ紙製品部門、化学製品部門、エネルギー第一部門、エネルギー第二部門、金属部門、輸送機部門、電力・インフラ部門、プラント・産業機械部門、金融・物流・情報部門、開発建設部門がある。しかも丸紅の各部門は、いずれも「国と国」、「文化と文化」のつながりを成し遂げ、しかも豊富な管理経験と革新的技術を通じて、業務能率と資源利用率を高め、子孫末裔のために恩恵をもたらし、それにより「現在と未来」のつながりを実現しているのだ。

私たちは皆、丸紅のこのような巨大で、しかも錯綜した複雑な企業のバリューチェーンに驚嘆した。丸紅の代表はまた私たちに、「丸紅はなぜ今日の規模に発展できたのか、それはバブル経済破綻後の経営大調整によるものだ」と紹介した。

これについて、丸紅は私たちのために詳細な紹介をしてくれた。1980年代のプラザ合意が急激な円高をもたらし、日本経済はいったん過熱したが、1990年代には日本のバブル経済が破綻に至り、同時にアジア金融危機が席卷し、災難に災難が重なる状態であった。21世紀に世界経済に好転の兆しが現れた時、米国を震源地とする金融危機が再び大きな痛手をもたらした。このような経済環境に直面し、丸紅は困難に立ち向かい改革を行った。財務体制を改善し、負債率を下げ、全面的なリスクマネジメントを実施し、資本コスト意識を強化し、合理的

総合商社与一般贸易公司的异同



なりリスク・リターンを追求し、しかも事業ユニットを通じてグループ全体の経営を強化した。それにより会社の経営状況を改善したのだ。

丸紅の説明会の後、私たちは夕食交流会を行った。私たちは丸紅の社員たちと一緒に夕食を摂り、そしてみんなが興味を持つ問題について踏み込んだ交流を行った。今回の交流会は極めて深い印象を皆に残したことだろう。

知っていますか？

Q: 総合商社とは何か。

A: 総合商社とは貿易を主体とし、多種のビジネスが共存し、貿易、金融、情報、倉庫・貯蔵、運輸、組織と調整などの総合機能を集中一体化した多国籍企業形式の組織キャリアーで、実業化、グループ化、国際化を一身に集中させた貿易産業グループである。丸紅株式会社は日本五大総合商社の一つとなっている。

Q: 丸紅の業績及び規模

A: 丸紅は総合企業グループで、それはブローカー、ディーラー、卸売店、代理店、リース会社、投資会社、不動産会社、シンクタンク、大型プロジェクトのオーガナイザーなどの各種機能を集中一体化し、世界経済と市場ニーズにランダムに対応している。2011会計年度の丸紅グループの収益は1,721億円と史上最高記録を創った。本社は東京に設置され、世界71ヵ国と地区に分布する118の海外支店機構及び272社の投資会社を通じて、そして各事業分野のこれらの営業網を中核として、商社機能を存分に発揮している。

Q: 丸紅の経営理念

A: 丸紅の経営理念は「正、新、和」で、これはその社会責任の基礎でもある。いわゆる「正」とは、法律を遵守し、公明正大な企業活動を行うことを指す。「新」とは、進取と革新に富み、新たな飛躍のために絶えず挑戦することを指す。「和」とは、社会及び環境の調和した発展と、公衆の信頼を勝ち取ることを指す。



感想

帰国後に丸紅の関連資料を参照し、更に理解した後、私は中国企業が吸収する価値のある経験は2点あると考える。第一は情報に対する重視だ。丸紅の発達した情報網は同社が世界に立脚する重要な点だ。この巨大な情報網はどの瞬間、どの場所で発生した出来事でも丸紅が世界各地に設けた大小の支店機構に伝達され、それにより意思決定に役立つ。この点は同様に変化の激しい世界経済の中に身を置く中国企業にとって、学習し参考にする価値がある。第二は金融サービス機能に対する重視だ。丸紅の四川省成都市におけるフランスのビベンディ社との共同投資による都市水道水供給プロジェクトについて調べる内に、丸紅が協力者のキャッシュフローの遣り繰りがつかない状況で、自らの信用を担保に銀行に彼らのために融資を提供させたことに気付いた。総合商社として、貿易と投資は多くの分野、多くの方面、多くの産業界に足を踏み入れており、それにより関係するプロジェクトの運営効率を非常に大きく高めることは、非常に参考として学ぶに値する。

振り返って中国を見ると、経済活動の中ではこのような金融、商業と産業を一身に集中した、いわゆる総合商社のような企業体制は全く存在しない。これは政府と企業が一体となって協力し努力することが必要な多くの産業で、例えば現在の鉄道系統の高度化の中では、効率の低さなどの多くの不便をもたらしている。したがって、中国企業は現在の「高速鉄道」、「3G」、「4G」などのプロジェクトの発展の将来性が高い背景の下で、日本のこのような総合商社を中核とする財団体制に学び、政治と経済界の全体的な協力、資金提供側と産業連合体との全面的協力を通じて、世界的な範囲で市場を勝ち取り、収益をもたらすと同時に、中国の各産業の絶え間ないレベルアップを推進しなければならない。